

二酸化炭素を使用した大腸内視鏡検査

① 従来式の大腸内視鏡検査の問題点

大腸内視鏡の苦痛の一つが、検査中に大腸に入れた空気による張りです。中を観察するためある程度空気を入れる必要がありますが、奥に入れた空気はすぐには出ません。

そのため、検査後にどうしてもお腹が張り、検査後数十分～数時間の腹部膨満感・苦痛が伴うことが多くみられます。

② CO₂送気装置利用の利点

当院では、この腹部不快感を軽減するために、炭酸ガス(二酸化炭素)で送気する装置(CO₂送気装置)を導入しました。

CO₂送気装置

安定したCO₂送気により、安全な内視鏡検査や処置をサポートします。



当院が使用しておりますCO₂送気装置は、大学病院でも用いられているもので十分な安全性、実績を有しております。

また、CO₂送気装置使用による患者様への費用のご負担も頂いておりません。

二酸化炭素は非常に水に溶けやすい性質があり、医療現場では様々なところで使われています。

現在お腹の手術では小さな傷で済む腹腔鏡手術が行われることが普通になりましたが、この腹腔鏡で気腹(お腹を膨らませる)に使われるのが二酸化炭素です。

また肝臓がんの精密検査では動脈に小さな泡を入れて腹部エコー検査

を行うことがあります。すぐ吸収される二酸化炭素を利用して空気塞栓という重篤な合併症を防いでいます。

この二酸化炭素を大腸内視鏡の送気で用いることで、確実に、苦痛を減らせることができます。

CO₂送気装置によって送気された炭酸ガスは空気と比べて生体吸収力に優れていることから拡張した管腔を速やかに収縮させ、患者さんの膨満感からくる苦痛を緩和することができるので、よりスムーズで安全な内視鏡検査が可能になります。

苦痛のない大腸内視鏡検査を、是非、体験してみてください。

③ 従来の空気を入れて検査した場合（従来法）と、**CO₂送気装置利用**の検査の違い

従来法



CO₂送気装置利用



どちらも検査後の腹部X線写真です。

黒く見えるのが腸内のガスですが、明らかに、**CO₂送気装置利用**の方が検査後にガスのたまりが少ないのが分かります。

このように、**CO₂ガス**は、空気の**100倍**近い速さで水分に吸収されるため検査終了後の腹部膨満感や不快感がかなり軽減されます。